

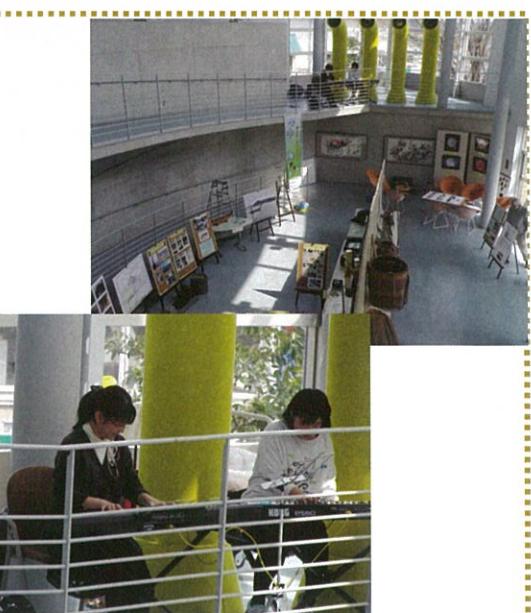


●「慈しみのミニコンサート」の開催

「慈しみのミニコンサート」を開催しました。町民ホールで八束町の民具展が行われ、展示期間最終日の3月22日に「慈しみのミニコンサート」を開催しました。

記念館の高校生ソーターのお二人が、モーツアルトの「キラキラ星」の変奏曲を連弾で、さらにはドビュッシーの「アラベスク」など全4曲を演奏してくださいました。美しい旋律がホールだけでなく記念館の入口まで響いてきました。

ソーターさんの後に、スタッフも「スカボローフェア」をギターとアコーディオンで演奏しました。残響が独特なホールなので、また音楽の催しを計画したいと思います。



●大根島 ぼたん祭開催



色とりどりのぼたんが咲き始めた頃、今年も大根島でぼたん祭が開催されました。

4月29日のステージイベントでは八束学園プラスバンドの演奏や、kotonohaさんのライブ、六子さんのライブが行われ、始終賑やかなムードでした。

今年は中村元記念館からの出し物として、「ラ・エスペランサ」の皆さんに演奏をしていただきました。ラ・エスペランサとはスペイン語で、『希望』、『夢』などの意味を持つ言葉で、研究員の岡崎秀紀さんが所属されているバンドです。オカリーナ、ケーナ、フルート、キーボードで編成されており、松江市を中心に活躍されています。

テーマ曲『花祭り』のオープニング、もののけ姫やハナミズキなど、ヒット曲からアニメまで、種類に富んだ曲を演奏してくださいました。

普段聞き慣れた曲でも、楽器を変えるだけで今まで聴いたことのないような曲になり、聴いていてとても新鮮でした。



発行／2015年7月 発行所／NPO法人中村元記念館東洋思想文化研究所

中村元記念館

〒690-1404 島根県松江市八束町波入2060番地
松江市八束支所 2階

TEL 0852-76-9593 FAX 0852-76-9693

Mail: info@nakamura-hajime-memorialhall.or.jp

URL: <http://www.nakamura-hajime-memorialhall.or.jp>

■開館時間：10:00～18:00（入館は17:30まで）

■入館料：無料 ■閉館日：月曜日、夏期休館、年末年始

Nakamura Hajime Memorial Hall
ナカムラ ハジメ メモリアル ハウス



中村元記念館通信 第7号

News

中村元博士の蔵書約3万冊を松江市に寄贈する調印式が行われました (2015.4.10)

4月10日、中村元記念館で、中村元博士の蔵書約3万冊を松江市へ寄贈する調印式が行われました。

当日は、NPO法人中村元記念館東洋思想文化研究所理事長清水谷善圭のあいさつのうちに調印を結び、松浦正敬松江市長より答礼のごあいさつをいただきました。最後に、公益財団法人中村元東方研究所理事長前田專學先生がごあいさつをされ、盛会のうちに終了いたしました。

このたびの調印式を無事に終えることができたのは、松江市を始めとする、多くの方々のお力添えがあったからでございます。

当館のスタッフ一同、誠心誠意努めてまいりますので、これからもどうぞよろしくお願ひいたします。



News

平成27年度東方学院松江校ガイダンス 実施



4月11日、平成27年度東方学院松江校ガイダンスを実施いたしました。当日は、受講申込をされた研究会員のほか、講義に関心のある方々も参加されました。

最初に前田専學先生の挨拶があり、中村元博士についてのDVD鑑賞の後、各講座の先生による講座案内を行いました。各講師の熱の入った説明に、研究会員の皆様は耳を傾けておられました。平成27年度東方学院松江校は、4月18日より開講しています。ご興味のある方は記念館までお気軽にお問合せください。



●中村元記念館特別展「インド・ジャイナ教の世界」のお知らせ

今年11月4日（土）に日本佛教教育学会が当記念館で開催されます。学会開催記念企画として10月中旬から11月中旬（予定）までの1ヶ月間、特別展「インド・ジャイナ教の世界」を開催いたします。その予告展として、4月9日から5月10日まで約20点余りを館内の回廊に展示いたしました。展示された写真には、ジャイナ教を信奉する、色鮮やかで活き活きとした人々の様子が表現していました。

10月からの特別展「インド・ジャイナ教の世界」では、今回の予告展では展示できなかった多数の写真も登場する予定ですので、是非来館してご覧ください。





東方学院松江校

講座紹介

『アジアの風土と民族音楽Ⅰ～概説と楽器体験』

瀬古康雄 講師



瀬古先生(左)とスタッフ2名

4月25日に行われた瀬古先生の『アジアの風土と民族音楽Ⅰ～概説と楽器体験』の講座を、記念館スタッフ2名が体験学習させていただきました。

先生の授業では、アジアの民族音楽と西洋の音楽との違いを始め、インドの古典音楽や、舞踊や武術を鑑賞しながら、インド文化の基本を学ぶことができます。

また、この講座では実際にインドのシタールという楽器

の体験をすることができます。普段目にすることも、音色を聴く機会もあまりない、大変珍しい楽器なので、初めて楽器を手にした時は、スタッフ2名ともに、その重さと、重厚感のある音の響きに圧倒されてしまいました。

先生には、即興でシャンティ（心の平安を意味する）の曲を演奏していただきました。独特の世界観があり、不思議と心が休まる心地がしました。

今回は体験で短時間受講しただけなので、講座の内容をすべて学ぶことはできませんでしたが、通常は一コマ90分あるので、もっと深くまで学ぶことができます。

興味を持たれ方は、お気軽に記念館までお問い合わせください！

「だんだんパスポート」の実施

中海・宍道湖・大山圏域市長会による、圏域の宝発掘プロジェクト「だんだんパスポート」が3月1日から実施されました。

パスポートには、圏域の88ヵ所のお宝スポット情報が掲載されており、そのうち44ヵ所に設置してあるスタンプを集めると、集めた数に応じて抽選で景品がもらえるスタンプラリーがあります（来年2月末まで）。スタンプを3つ以上集めて応募すると、参加賞として全員にオリジナル手ぬぐいがもらえます。

中村元記念館もスタンプ設置場所となっております。ぜひスタンプを押しにご来館ください！



東方学院松江校夏期特別講座 申込受付中！

1. 日本文化の起源としてのインド文化

＜講師＞保坂 俊司 8/22(土)
中央大学大学院教授 8/23(日)

近年、頓に日本とインドとの政治経済の関係が注目されることとなりました。そこで、改めて日本とインドの思想的関係性を考えてみようと思うのが、本講座の眼目です。本記念館の前田専學先生は「インド文化は日本文化の母である」とよく仰っておられます。本講座では、この点を「神仏習合」をキーワードに考えます。（夏期特別講座チラシより、抜粋）



2. 世界の宗教について 8/29(土)

＜講師＞吉田宏哲 8/30(日)
大正大学名誉教授・博士(文学)

人間のみが人は生まれ年老いて死ぬということを知っており、身内の死を悼み、埋葬などの儀礼をおこなう。この儀礼の仕方や意味づけが宗教の意味であるがその様式は世界的な地域や時代によってさまざまである。自分はいったいどの宗教を選ぶのか自分の魂の拠り所は何かを探る。（夏期特別講座チラシより、抜粋）



3. 仏典『真理のことば』(『法華經』)を読む

＜講師＞前田専學 9/5(土)、9/6(日)

公益財団法人中村元東方研究所理事長

中村元記念館館長



仏典を集めた叢書の中、もっとも古いのは『パーリ語三蔵』とか『原始仏典』とか云われています。この講義で取り上げる『真理のことば』は、『原始仏典』の中で、おそらく最も有名なもので、漢訳された経典の中の『法句經』に相当します。短い詩集で、全体は26章に分かれ、423の詩句から成っています。『真理のことば』は、人間そのものに対する、思わずハッとするような鋭い反省を述べており、世界各国で訳され、読まれています。日本でも沢山の邦訳がありますが、本講義では、中村元先生の邦訳を使って、皆さんと読み、味わってみたいと思っています。

4. 天台四教儀

＜三友健容＞

立正大学教授



小乗・大乗佛教の教理を概説した『天台四教儀』を講読する。

興味を持たれた方は記念館までお問い合わせください！

TOPIC

中村元記念館企画 [第二弾：インド仏蹟巡拝《釈尊三大聖地》の旅] 参加者アンケート 結果発表

中村元記念館企画第2弾として、平成27年2月9日(月)～15日(日)の7日間にわたってインド仏蹟巡拝【釈尊三大聖地】の旅を実施いたしました。今回は、参加者様のアンケートを発表したいと思います。

1. 今回の旅行はどちらでお知りになりましたか。

順位	手段	得票数
1位	知人からすすめられて	5件
2位	記念館のチラシ	4件

2. 記念館の旅行に参加された目的・理由をお選びください。

順位	目的	得票数
1位	インドに興味がある	8票
1位	仏教に興味がある	8票
3位	知人がいるので	3票

参加者様の声

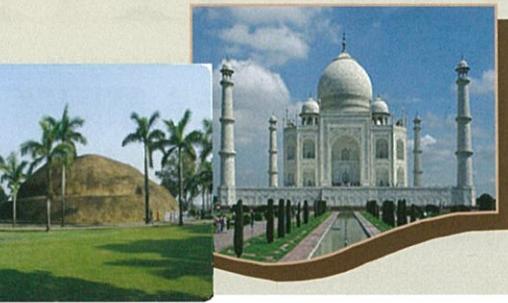
- ・自分を見つめ直すいい機会になった。
- ・初めて会う人ばかりだったが、旅を通して旧来の友人となった。

アンケートのご協力、ありがとうございました！

順位	場所	得票数
1位	タージ・マハル	7票
2位	ルンビニ	7票
2位	アグラ	6票
4位	クシナガラ	5票

4. 本企画展の満足度をお聞かせください。

順位	満足度	得票数
1位	大変良かった	8票
2位	まあまあ良かった	3票



中村博士の本を紹介

博士の本棚

『佛教行事散策』 中村元編著 東京書籍 1989年出版

東大寺修二会と出雲両所大明神

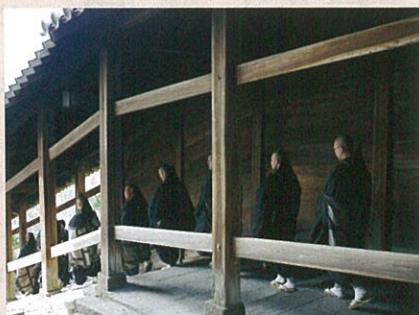
中村元編『佛教行事散策』には、日本全国の佛教行事が、春夏秋冬を通じて紹介されています。その中のひとつが、東大寺二月堂の「修二会（お水取り）」です。大和に春を呼ぶこの祭りは、我々が一年間に犯した罪穢れを十一面觀自在菩薩に懺悔し、国家の除災招福を願うものです。修二会を執り行うのは練行衆と呼ばれる僧侶達で、2月下旬から半月以上外界との関わりを絶って潔斎し、真夜中まで及ぶ過酷な行法を、1264年間一度も絶えることなく続けてきました。

この修二会、佛教行事ではありますが、全国五百ヶ所を超える神社から、数多の神々が東大寺に集うことをご存じでしょうか。お寺の行事なのに、なぜ神様が集まるのか？

修二会の行法では、毎晩必ず「神名帳」という神々の名を記したリストを読み上げ、全国各地の神様を招待しているのです。この神名帳は延喜式神名帳をベースにしつつも東大寺独自の解釈で構成されており、畿内を中心に449項522の神名を、緩急の激しい独特の節回しで読み上げます。そしてこの神名帳の、318項目に読み上げられるのが「出雲両所大明神」。神名帳で出雲の神様が登場するのはここだけです。「両所」のうちひとつは、云わざと知れた「杵築（出雲）大社」。もうひとつは、延喜式神名帳で出雲国の筆頭に登場する「熊野大社」。どちらも出雲国造が奉斎する社であり『出雲國風土記』において「大社」と表記されるのはこの両社のみ。出雲代表として納得の選出ですね。

遙々二月堂までお越しになった神々は、修二会の行法のメイン・十一面觀音を讃える聲明という佛教音楽を楽しみ、人々に御神徳を授けてくれるので。東大寺二月堂修二会は、神と仏の双方に衆生の幸福を祈る、神仏和合のお祭りなのです。

練行衆の低く莊厳な歌声が、燈明に照らされた二月堂内陣に響き渡る、東大寺長老曰く「佛教コンサート」に、全国の神々と一緒に耳を傾けてみてはいかがでしょうか。（研究員 中野秋鹿）



日没の行法を終え下堂する練行衆